

豊中の里山を守る

島熊山

コバノミツバツツジ
早春の山を彩る濃いピンク色の花。小さな三つ葉の葉がその名の由来。



エゴノキ
5月、白い花がぶら下がるように揺れています。

チョウトンボ
草原をチョウのようにふわふわ舞い飛びます。光の加減で翅の色が変わります。



ミズイロオナガシジミ
雑木林の妖精のようなチョウです。



チガヤ 6月、チガヤの穂が銀色の波のように埋め尽くす草原。

島熊山は、万葉集に詠まれ、江戸時代の地誌「摂津名所図会」にも記述される歴史に名を残す山です。市内で最も多い種類の在来の植物が見られ、キツネやタヌキ、数多くの野鳥や昆虫が生息する自然豊かな里山です。この貴重な森を残そうとする市民による「島熊山基金」の設立や保全活動が展開された島熊山は、自然豊かなみどりの保全・再生を地域で進めるため、平成18年（2006年）大阪府から豊中市に移管されました。現在は、島熊山の雑木林を守る会や同会も参画する島熊山緑地協議会が中心となって、市民による保全活動が続けられています。その島熊山の豊かな自然にふれてみましょう。

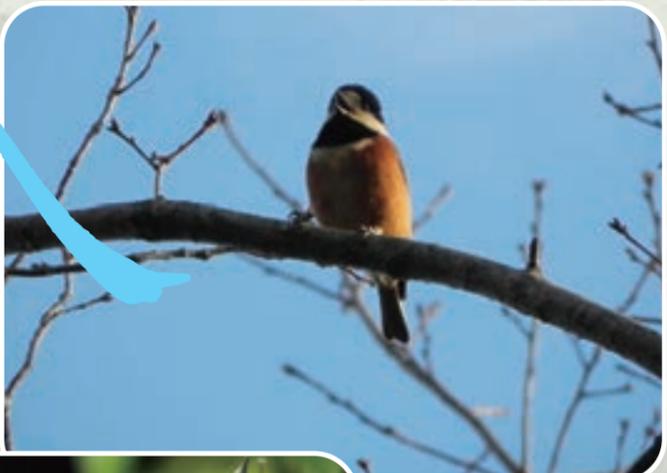
秋



オオセイボウ
9月、宝石のように光り輝くハチ。



コウヤボウキ 10月、島熊山の秋を代表する花です。



ヤマガラ 人懐っこいヤマガラは、エゴノキの実が好物。

アオジ 用心深く、藪の中にいることが多い。



写真提供…土田泰子さん(島熊山の雑木林を守る会)

千里の美しい竹林

千里東町公園

豊中市と吹田市にまたがる千里丘陵の竹林は、「21世紀に残したい日本の自然100選」(朝日新聞社・財団法人 森林文化協会)に大阪府内で2か所選ばれたうちの1つです。

江戸時代末期、稲作に向かない土壌のため、農家が副業としてモウソウチクを植えたのが始まりといわれ、のちにタケノコの産地として有名になりました。年月を経て、手入れをされなくなった竹林は、枯れた竹や倒れた竹が放置され、



千里東町公園内の美しく整備された竹林。1年を通じた定期的な活動の賜物です。



竹垣用に竹を切って保存しておくのは冬場の作業です。



見事に組まれた竹垣は意匠も様々。4、5年で作り直す竹垣組みは夏に行います。

ゴミが散乱する状態に。「このままでは竹林がダメになる」と地域の人を中心に「千里竹の会」を設立したのが平成15年。以来、竹の間伐や竹垣づくりといった竹林整備だけでなく、竹炭、竹酢液、竹細工など竹にまつわる生活文化の伝承活動も行っています。その地域貢献活動が認められて、平成27年度には第35回緑の都市賞(公益財団法人 都市緑化機構)の緑の市民協働部門において国土交通大臣賞を受賞しています。